

日本海新聞

発行所
新日本海新聞社
〒680-8608 鳥取市富安2丁目137
電話(0857)21-2888(代表)
西部本社
〒683-8520 米子市南三柳3060
電話(0859)34-8811(代表)
中部本社
〒682-8505 倉吉市上井町1丁目156
電話(0858)26-8300(代表)
郵便振替 01470-7-8099
©新日本海新聞社 2024

特別号外

日本海新聞購読お申し込みは

(受付時間 9:20~18:00
日曜・祝日・年末年始除く)



本社 0120-123-4141
中部 0120-126-18330

西部 0120-133-11405
但馬 0120-182-14541

第102代首相に石破氏

自民党の石破茂総裁(67)は1日午後、衆院本会議の首相指名選挙で第102代首相に選出された。約3年で退陣する岸田文雄首相(67)から政権を引き継ぐ。石破氏は直ちに組閣に着手。皇居での首相任命式と閣僚認証式を経て、夜に石破内閣を発足させる。衆院を9日に解散し、衆院選を15日公示、27日投開票の日程で実施する意向だ。与野党は臨戦態勢に入り、派閥裏金事件を受けた対応や物価高対策を含む経済政策が争点となる。

石破氏は9月30日の記者会見で「新政権はできる限り早期に国民の審判を受けることが重要だ」と述べ、国会論戦を限定した衆院選

日程を表明した。野党は「国会軽視だ」と批判している。与党は4日に衆参両院で所信表明演説、7日から各党代表質問を行う日程を想

定する。石破氏は演説で裏金事件を踏まえた信頼回復や物価上昇を上回る賃上げ実現を訴え、立憲民主党の野田佳彦代表(67)は代表質問で「政治とカネ」問題を厳しく追及する構えだ。新内閣では総裁選で争った岸田内閣の林芳正官房長官(63)を再任させ、財務相に加藤勝信元官房長官(68)を充てる。

鳥取出身の首相は初。石破氏は1986年に初当選し衆院当選12回。

岸田内閣は1日午前の閣議で総辞職した。岸田首相の在職日数は1094日で、戦後8番目の長さだった。

鳥取出身で初

石破茂氏の歩み

- 1986年7月 衆院旧鳥取全県区に自民党から立候補し初当選
- 93年12月 政治改革法案に絡み自民離党
- 94年4月 新生党入党。12月に新進党参加
- 97年4月 自民に復党
- 2002年9月 小泉内閣で防衛庁長官として初入閣
- 07年9月 福田内閣で防衛相
- 08年9月 総裁選出馬、敗北。麻生内閣で農相
- 09年9月 野党の自民で政調会長
- 12年9月 総裁選出馬。決選投票で安倍晋三氏に敗北。党幹事長
- 15年9月 石破派結成
- 18年9月 総裁選敗北
- 20年9月 総裁選敗北
- 21年9月 総裁選不出馬。河野太郎氏を支援
- 12月 石破派解消
- 24年 総裁選決選投票で高市早苗氏に勝利。9月27日 総裁に選出される
- 10月1日 首相就任

衆院本会議で第102代首相に指名された自民党の石破茂総裁。1日午後2時14分





経済再生担当相として初入閣する赤沢亮正財務副大臣

1日発足する石破内閣で、自民党の赤沢亮正氏(63)＝衆院鳥取2区、6期＝が経済再生担当相に起用される。赤沢氏の入閣は初。鳥取県選出議員の入閣は2014年9月の石破氏の地方創生担当相以来、鳥取2区からは経済企画庁長官などを務めた故相沢英之氏以来となる。

赤沢氏は旧運輸省を経て2005年9月の衆院選で初当選。党国土交通部会長、内閣府副大臣などを歴任し、23年1月から財務副大臣を務めた。旧石破派に所属し、24年9月の党総裁選では石破陣営の選対事務総長を務めた。長年、石破氏と行動を共にし非主流派のルートを歩んでいたが、石破政権の誕生に伴い初当選から19年で大臣に起用された形だ。

経済再生担当相として、石破氏の総裁選公約だった「デフレ完全脱却のための経済対策」などに取り組み見通し。2026年度中の防災庁設置に向けた準備も担当する可能性がある。

衆院鳥取2区 経済再生相に起用

赤沢氏が初入閣

赤沢亮正氏の主な経歴

- 1984年3月 東京大学法学部卒業
- 4月 旧運輸省入省
- 1991年 米国コーネル大学経営学修士(MBA)取得
- 2001年7月 国土交通省企画官
- 04年7月 旧郵政公社海外事業部長
- 05年9月 衆院選で初当選
- 12年12月 国土交通大臣政務官
- 13年10月 自民党国土交通部会長
- 14年9月 内閣府副大臣
- 12月 内閣府副大臣(再任)
- 16年1月 衆院環境委員長
- 9月 自民党国会対策委副委員長
- 20年9月 内閣府副大臣
- 23年1月 財務副大臣

歴代内閣総理大臣

氏名	在職日数	任期開始日
第102代 石破 茂	—	令和6年10月1日～
第101代 岸田 文雄	1056日	令和3年11月10日～
第100代 岸田 文雄	38日	令和3年10月4日～
第99代 菅 義偉	384日	令和2年9月16日～
第98代 安倍 晋三	1051日	平成29年11月1日～
第97代 安倍 晋三	1044日	平成26年12月24日～
第96代 安倍 晋三	729日	平成24年12月26日～
第95代 野田 佳彦	482日	平成23年9月2日～
第94代 菅 直人	452日	平成22年6月8日～
第93代 鳩山由紀夫	266日	平成21年9月16日～
第92代 麻生 太郎	358日	平成20年9月24日～
第91代 福田 康夫	365日	平成19年9月26日～
第90代 安倍 晋三	366日	平成18年9月26日～
第89代 小泉純一郎	371日	平成17年9月21日～
第88代 小泉純一郎	673日	平成15年11月19日～
第87代 小泉純一郎	938日	平成13年4月26日～
第86代 森 喜朗	297日	平成12年7月4日～
第85代 森 喜朗	91日	平成12年4月5日～
第84代 小渕 恵三	616日	平成10年7月30日～
第83代 橋本龍太郎	631日	平成8年11月7日～
第82代 橋本龍太郎	302日	平成8年1月11日～
第81代 村山 富市	561日	平成6年6月30日～
第80代 羽田 孜	64日	平成6年4月28日～
第79代 細川 護熙	263日	平成5年8月9日～
第78代 宮澤 喜一	644日	平成3年11月5日～
第77代 海部 俊樹	616日	平成2年2月28日～
第76代 海部 俊樹	203日	平成元年8月10日～
第75代 宇野 宗佑	69日	平成元年6月3日～
第74代 竹下 登	576日	昭和62年11月6日～
第73代 中曽根康弘	473日	昭和61年7月22日～
第72代 中曽根康弘	939日	昭和58年12月27日～
第71代 中曽根康弘	396日	昭和57年11月27日～
第70代 鈴木 善幸	864日	昭和55年7月17日～
第69代 大平 正芳	217日	昭和54年11月9日～
第68代 大平 正芳	338日	昭和53年12月7日～
第67代 福田 赳夫	714日	昭和51年12月24日～
第66代 三木 武夫	747日	昭和49年12月9日～
第65代 田中 角栄	718日	昭和47年12月22日～
第64代 田中 角栄	169日	昭和47年7月7日～
第63代 佐藤 栄作	906日	昭和45年1月14日～
第62代 佐藤 栄作	1063日	昭和42年2月17日～
第61代 佐藤 栄作	831日	昭和39年11月9日～
第60代 池田 勇人	337日	昭和38年12月9日～
第59代 池田 勇人	1097日	昭和35年12月8日～
第58代 池田 勇人	143日	昭和35年7月19日～
第57代 岸 信介	769日	昭和33年6月12日～
第56代 岸 信介	473日	昭和32年2月25日～
第55代 石橋 湛山	65日	昭和31年12月23日～
第54代 鳩山 一郎	398日	昭和30年11月22日～
第53代 鳩山 一郎	249日	昭和30年3月19日～
第52代 鳩山 一郎	100日	昭和29年12月10日～
第51代 吉田 茂	569日	昭和28年5月21日～
第50代 吉田 茂	204日	昭和27年10月30日～
第49代 吉田 茂	1353日	昭和24年2月16日～
第48代 吉田 茂	125日	昭和23年10月15日～
第47代 芦田 均	220日	昭和23年3月10日～
第46代 片山 哲	292日	昭和22年5月24日～
第45代 吉田 茂	368日	昭和21年5月22日～
第44代 幣原喜重郎	226日	昭和20年10月9日～
第43代 東久通彦	54日	昭和20年8月17日～
第42代 鈴木貫太郎	133日	昭和20年4月7日～
第41代 小磯 国昭	260日	昭和19年7月22日～
第40代 東條 英機	1009日	昭和16年10月18日～
第39代 近衛 文麿	93日	昭和16年7月18日～
第38代 近衛 文麿	362日	昭和15年7月22日～
第37代 米内 光政	189日	昭和15年1月16日～
第36代 阿部 信行	140日	昭和14年8月30日～
第35代 平沼騏一郎	238日	昭和14年1月5日～
第34代 近衛 文麿	581日	昭和12年6月4日～
第33代 林 銑十郎	123日	昭和12年2月2日～
第32代 広田 弘毅	331日	昭和11年3月9日～
第31代 岡田 啓介	611日	昭和9年7月8日～
第30代 斎藤 実	774日	昭和7年5月26日～
第29代 犬養 毅	156日	昭和6年12月13日～
第28代 若槻礼次郎	244日	昭和6年4月14日～
第27代 浜口 雄幸	652日	昭和4年7月2日～
第26代 田中 義一	805日	昭和2年4月20日～
第25代 若槻礼次郎	446日	大正15年1月30日～
第24代 加藤 高明	597日	大正13年6月11日～
第23代 清浦 奎吾	157日	大正13年1月7日～
第22代 山本権兵衛	128日	大正12年9月2日～
第21代 加藤友三郎	440日	大正11年6月12日～
第20代 高橋 是清	212日	大正10年11月13日～
第19代 原 敬	1133日	大正7年9月29日～
第18代 寺内 正毅	721日	大正5年10月9日～
第17代 大隈 重信	908日	大正3年4月16日～
第16代 山本権兵衛	421日	大正2年2月20日～
第15代 桂 太郎	62日	大正元年12月21日～
第14代 西園寺公望	480日	明治44年8月30日～
第13代 桂 太郎	1143日	明治41年7月14日～
第12代 西園寺公望	920日	明治39年1月7日～
第11代 桂 太郎	1681日	明治34年6月2日～
第10代 伊藤 博文	204日	明治33年10月19日～
第9代 山縣 有朋	711日	明治31年11月8日～
第8代 大隈 重信	132日	明治31年6月30日～
第7代 伊藤 博文	170日	明治31年1月12日～
第6代 松方 正義	482日	明治29年9月18日～
第5代 伊藤 博文	1485日	明治25年8月8日～
第4代 松方 正義	461日	明治24年5月6日～
第3代 山縣 有朋	499日	明治22年12月24日～
第2代 黒田 清隆	544日	明治21年4月30日～
第1代 伊藤 博文	861日	明治18年12月22日～

※参考：首相官邸ホームページより

今夜発足する石破新内閣の顔触れ

【2024年10月1日発足】

総 理 いし ば 石破 茂 67 衆12鳥取1区 (無派閥)	環 境 [初] あさ お 浅尾慶一郎 60 参3神奈川選挙区 衆3(麻生派)
総 務 むら かみ 村上誠一郎 72 衆12愛媛2区 (無派閥)	防 衛 なか たに 中谷 元 66 衆11高知1区 (無派閥)
法 務 [初] まき はら 牧原 秀樹 53 衆5比例北関東(無派閥)	官 房 [再] はや し 林 芳正 63 衆1山口3区 参5(旧岸田派)
外 務 いわ や 岩屋 毅 67 衆9大分3区 (無派閥)	デジタル [初] たい ら 平 将明 57 衆6東京4区 (無派閥)
財 務 か と う 加藤 勝信 68 衆7岡山5区(旧茂木派)	復興 [初] い と う 伊藤 忠彦 60 衆5愛知8区(旧二階派)
文部科学 [初] あ べ 阿部 俊子 65 衆6比例中国 (無派閥)	国家公安 [初] さ か い 坂井 学 59 衆5神奈川5区(無派閥)
厚生労働 [初] ふく おか 福岡 資麿 51 参3佐賀選挙区 衆1(旧茂木派)	こども政策 [初] み ほ ら 三原じゅん子 60 参3神奈川選挙区(無派閥)
農林水産 [初] お ざ と 小里 泰弘 66 衆6比例九州 (無派閥)	経済再生 [初] あ か ざ わ 赤沢 亮正 63 衆6鳥取2区 (無派閥)
経済産業 [初] む と う 武藤 容治 68 衆5岐阜3区 (麻生派)	経済安全保障 [初] き う ち 城内 実 59 衆6静岡7区(旧森山派)
国土交通 [再] さい と う 齊藤 鉄夫 72 衆10広島3区 (公明)	地方創生 [初] い と う 伊東 良孝 75 衆5北海道7区(旧二階派)

※ 旧名は再任、初は初入閣。数字は年齢。衆院の選挙区は2021年衆院選時のもので、小選挙区定数は増10減の区割り適用前。
○数字は当選回数。()内は昨年12月1日時点の所属派閥。解散を表明した派閥は名称の前に「旧」を付けた。斎藤氏は所属政党。敬称略